

指導と評価の年間計画（シラバス）

教科	公民	科目	公共	単位数	3単位
年次	1年次	学科・コース	食品工学科		
使用教科書		高等学校 公共（数研出版 104数研 公共709）			
副教材等		高等学校 公共 整理ノート			

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

消費税はなんで上がったの？国の借金って何？など、日頃のニュースで目にするものは実は私たちの生活に深い関わりがあるものばかりです。公共の授業を通して、これらの知識取得はもちろん、自分の考えを持つきっかけにしてほしいと思います。また、授業で分からないことがあれば遠慮なく質問してください。

2 学習評価（評価規準と評価方法）

学習目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。		
観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	考察・選択・判断のための手掛かりとなる概念・理論を理解し、諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養うことができている。	よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めることができている。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況の観察 小テスト、定期考査 整理ノート 	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 レポート、グループ討議・発表 定期考査、小テストの結果 	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 レポート、グループ討議・発表 自己評価、相互評価等
学習のまとめ（単元等）ごとに、上に示す観点に基づいて、評価規準を設定し、A（十分満足できる）、B（おおむね満足できる）、C（努力を有する）の3段階で評価します。また、それらの評価を基に学年末に5段階の評定にまとめます。そのために学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

3 年間の学習計画等

学期	単元	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 学 期	巻頭特集 公共的な空間をつくる私たち			
	第1節 大人ってどんな人？	・青年期は自立や自律をはかる重要な時期であることを理解できている	・自己形成の課題について考察できている。	・自らを成長させる人間としての在り方生き方とはどのようなものか主体的に追求できている。
	第2節 お互いを理解し尊重するために	・伝統や文化、宗教などを背景にして現代の社会が成り立っていることが理解できている。 ・古代から近代の日本の思想家の思想内容が理解できている。	・先哲の思想や伝統、文化、宗教が自分自身の生き方に与えている影響に気付くことができている。	・先哲の思想や生き方から自分自身の生き方を検証し、参考にできることはないか主体的に追求できている。
	第3節 誰もが生きやすい社会へ	・自分たちが生きる社会が、様々な背景を持つ多様な人々から成り立っていることを理解できている。	・自分と異なる価値観に基づく主張を聴いたり、様々な立場に立って共感的に他者の思いを受け入れたりすることができている。	・自主的に公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体であるという自覚した行動をとることができている。
	第1章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方			

1	第1節 西洋近現代の思想	・近世・近代・現代の世界の思想家の思想内容を理解できている。	・先哲の思想や生き方から自分自身の生き方を検証し、公共的な空間をつくる主体としての自己の生き方について考察できている。	・選択・判断の手掛かりとなる考え方を理解し、身につけようとしている。
	第2節 現代の諸課題と倫理	・地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの事象について理解できている。	・公共的な空間における人間としての在り方生き方を考察するための選択・判断の手掛かりが考察できている。	・選択、判断の手掛かりとなる考え方を使得って、現代の諸課題を主体的に追究できている。
学 期	第2章 公共的な空間における基本的原理			
	第1節 民主社会の基本原則	・人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利など、公共的な空間における基本的原理について理解できている。	・このような基本的原理を考察することによって、個人と社会との関わりを多面的・多角的に考察することができている。	・民主政治が自らの生活とかかわっていることを理解し、民主社会に主体的に生きる人間のあり方生き方について思索を深められている。
	第2節 日本社会の基本原則	・日本国憲法の基本原則や保障されている権利が理解できている。	・日本国憲法の基礎にある考え方に着目し、公共的な空間における基本的原理との関連を考察することができている。	・日本国憲法で保障されている権利が理解でき、自らの生き方と権利を結びつけることができている。
2	第3章 ルールをつくり守る私たち			
	第1節 法と契約	・法や規範の意義や役割が理解できている。	・日常の買い物や銀行のクレジットカードなど、身近な契約の例を挙げるができる。	・身近な紛争状況を設定し、それを解決するためのルール作りを体験的に行うことができる。
学 期	第2節 司法参加の意義	・公正な裁判には司法権の独立が必要であり、国民の参加が大切であることが理解できている。	・裁判員制度がどのような目的で創設されたか考察できている。 ・裁判によって国民のどのような権利が守られているのか考察できる。	・模擬裁判などを通して、司法に関心を持ち裁判員制度の意義をふまえ積極的に参画する自覚を持つことができている。
	第4章 政治に参加する私たち			
	第1節 政治参加と民主政治の課題	・地方自治や選挙の仕組み、政党の役割を考察することによって具体的に民主政治を支える制度を理解できている。	・選挙制度の違いによって、政党制にも大きな違いがでてくることを考察できている。 ・自分が理想とする選挙制度を選択することができる。	・模擬投票などを通して、選挙に積極的に参加するなど主権者としての自覚を持つことができている。
学 期	第2節 国際政治の動向	・国際法の意義や国際紛争を解決する機関の役割が理解できている。 ・国際連盟・国際連合の組織と役割が理解できている。 ・冷戦の成立とその終結後の国際政治の流れが理解できている。	・集団的安全保障がなぜ効果的なのか考察できている。 ・国連の現状と課題について考察できている。	・日々報道される世界の国際紛争に関心を持っている。 ・それぞれの紛争の解決への筋道は何か提示することができる。
	第3節 国際政治の課題と日本の役割	・国際社会の中で平和主義を掲げる日本の役割が理解できている。 ・核軍拡から核軍縮への流れが理解できている。 ・現代の世界の紛争や人権問題について理解できている。	・留学生や国際NGOと接することにより、国際化を身近に体験し、国際社会の諸問題について判断できている。 ・国際問題について自分なりの意見を持ち、他者に説明できている。	・民族紛争や難民問題など国際政治問題について日常から関心を持っている。 ・留学生や国際NGOと接することにより、国際化を身近に体験し、国際社会の諸問題について主体的に追究できている。

3	第5章 経済活動を行う私たち			
	第1節 経済のしくみと産業の変化	<ul style="list-style-type: none"> 現代の企業が果たしている役割を理解できている。 中小企業や農業の果たしている役割と現状を理解できている。 産業構造の変化と職業選択との関係や、雇用・労働問題について理解できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代の企業倫理について考察できている。 経済のサービス化が進展し、国民生活にどのような変化をもたらしたか考察できている。 	<ul style="list-style-type: none"> AIやITなどの先端技術が発展するなかで、自分の進路や職業選択を考えることができている。 経済社会に主体的に生きる一員として、今後の日本経済について見通しがたてられている。
	第2節 市場経済のしくみと金融	<ul style="list-style-type: none"> 市場経済のメカニズムが理解できている。 各種経済指標を理解し、その指標の動向を読み解くことができている。 金融のしくみを理解し、経済状況に応じて適切な手段を提示できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 需給曲線を使って、どのような場合に価格が変動するのか考察できている。 GDPが大きいことが豊かさにつながるのかどうか、豊かさについて自分なりに判断できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 商品の価格は需給関係によって変動するものもあることを理解し、合理的な消費行動がとれている。 超低金利時代に生きる一員として、今後の経済設計がきちんとたてられている。
	第3節 財政と社会保障	<ul style="list-style-type: none"> 政府が経済に果たしている役割を理解できている。 財政のしくみを理解し、経済状況に応じて適切な手段を提示できている。 社会保障について理解できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自身の老後生活を予想し、租税（支払い）と社会保障（受け取り）とのバランスを考察できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の経済について課題を発見し、解決する見通しが持てている。
学	第4節 国際経済の動向と課題	<ul style="list-style-type: none"> 貿易や外国為替相場について、そのしくみが理解できている。 戦後の国際経済の流れが理解できている。 発展途上国の現状を知り、貧困や飢餓などの原因や課題を理解できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 経済のグローバル化と相互依存関係が深まっていることを理解し、それが日本経済にどのような影響を及ぼしているかを考察できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの日常生活が国際経済と不可分であることを自覚できている。 格差のある国際社会で、その克服のために自らがどのようなことができるか考え、実行しようという意欲を持つことができている。
	課題探究編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち			
	課題探究の観点	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会に生きる私たちの課題を指摘できている。 現代社会の諸問題について、その問題の所在、現状、問題点などが理解できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会の諸問題の解決のために、事実を基に協働して考察、構想することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな課題の中で、自己とのかかわりに注目して主体的に課題を選択し、探究できている。 それぞれが選択した課題について、今後も継続して探求しようという意欲を持つことができている。
課題探究の手引き	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会の諸問題について、探求するための資料を収集・選択し、的確に分析できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会の諸問題を多角的・多面的に考察し、その内容をレポートや口頭発表などによって的確に表現できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会の特質から生じる価値の対立について、討論やディベートなどさまざまな方法を活用して主体的に探究できている。 	

※上記の内容は授業の進度によって変更される場合があります。